

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		ケア記録では、様子やその場の状態だけの記録に終わっており、ケア方法の選択根拠やプロセスが見えてこない。適切なケアであったかどうか評価する際、アセスメントの記載が薄い為、評価が困難。	SOAP方式の記録方法を段階を設定して、全スタッフが出来るようにする。 (段階) ⇒SOAPの使い分けと内容の理解 ⇒箇条書きに分解して、書き分ける ⇒観察する際、本人の訴えや表情に目が向く ⇒出来るスタッフの書き方をマネする ⇒他のスタッフのAPを読み直す事でアセスメントのポイントが理解できる ⇒成功事例を自分の技として得る事ができる	昨年の10月～毎月の目標を設定し、毎月のカンファレンスにて全員で評価する。達成出来たら次の段階へ進む。これを繰り返し実践してきた。取り組みを始めて当初に比べ、1年間の時間を要したが、随分改善していると自己評価している。ただ、出来ていないスタッフは一年経過後も出来ていない。その為、観察力が向上しない。 左表の⇒できるスタッフの書き方をマネする、、、段階で止まっているスタッフもいる。今年度中、この取り組みを継続して、行っているケアを適切に記録する事で、その適切さを「見える化」していきたい。	7ヶ月
2		昨年の外部評価でも指摘を受けていた、面会記録簿と業者の来訪記録が整理されておらず、混在していた。	入居者のプライバシーを擁護する上から、早々に改善が必要。面会記録と来訪者シートの様式を変更し、その閉じ方も工夫。	令和5年7月～変更した。 ⇒その周知を行い際、なぜ変更が必要なのかをグループラインで共有した。このような機会を通じて、入居者のプライバシーを保持・擁護する。 ⇒併せて意識が変わったスタッフもいる。全員が認識出来るように、定期カンファレンスで再度周知していく。 ⇒入居者のプライバシーの保護や貴人情報の視点迄、それぞれのスタッフに意識が深まることを最終目標とした。	3ヶ月

3		<p>看取り介護を行っていない施設である。体調が悪化すると、即受診やそのまま入院となり、医療ニーズに対応できない施設で済んでいる事に甘んじている面がある。</p>	<p>看取りについては、人員基準や訪問医療・訪問看護等システムとして改革しないとならない部分なので、現場の物だけではすぐに改善する事は困難。</p> <p>当面の目標は、異常の早期発見と緊急時の対応を適切に行うとした。</p>	<p>⇒定期カンファレンスの機会や申し送りノートを活用して、疾患の基礎知識を高め、必要時には個別での質問にも答えていく。</p> <p>⇒受傷した部位や薬情報等、写メを活用して情報を共有する。</p> <p>⇒異常がわかるという事は、正常を知る事から始まると思われる。1ヶ月の状態について総括するシステムを取っているので、観察力や把握する力を高める為、担当を定期ローテーションする。</p>	3ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。